

和泉市あなたが選ぶ市民活動支援事業「ちょいず」の見直しについて

市長公室公民協働推進室

1. ちょいず制度の概要について

本制度は、通称 1%市民活動支援制度という市民税の 1%相当額を市民の選択届出（投票）により市民活動団体の事業を支援する制度であり、平成 17 年度に千葉県の市川市において日本で初めて制度化され、その後、本市を含め全国で 9 市が類似制度を実施。本市においては、平成 23 年度より「和泉市あなたが選ぶ市民活動支援制度（愛称：ちょいず）」を実施し、18 歳以上の市民による選択届出（投票）により市民活動団体が実施する事業に対する支援金を決める制度を開始し、来年度で 10 年目を迎えるにあたり見直しの検討を行うものとする。

(1) 現状の制度内容

(目的)

市民の市民活動に対する理解及び関心を深めるとともに、市民活動団体の活性化及びその活動の促進を図り、もって市民相互の協働によるまちづくりを推進する。

(助成率)

対象経費の 2 分の 1 以内

(限度額)

80 万円

(助成額の決定方法)

市内在住の 18 歳以上の方からの届出による助成額の決定

(2) 本市制度の変遷

毎年 4 月に実施している支援対象団体との「意見交換会」において寄せられた意見に基づき、市民活動団体の実情に即した支援を目的に要綱の改正を行ってきた。

時 期	内 容	詳 細
平成 24 年度	対象経費の変更	対象経費として「備品購入費」を追加
平成 25 年度	対象期間の変更	「支援金交付決定日（事業実施年度の 4 月以降）」以降に支出された経費を対象経費としていたが、「支援対象団体決定日」以降に変更（対象期間を拡充）
平成 26 年度	上限金額の引き上げ	上限額 50 万円から 80 万円に変更
平成 27 年度	届出方法の変更	インターネットによる届出方法の追加
平成 28 年度	PR 方法の追加	市 Facebook・市 Twitter による広報
平成 29 年度	PR 方法の追加	いずみメールによる広報

※軽微な修正及び様式変更等は除く。

※適用は、改正年度の翌年度事業からとなる。

2. ちょいず制度の実施経過

(1) 届出率の推移

届出人数については、制度導入当初（平成 23 年度）13,945 人から始まり平成 27 年度の 22,107 人が最も多く、届出率についても、9.3%から始まり平成 27 年度の 14.5%が最高となっている。

一定市民への制度周知も浸透している中で届出率も微増していたが現在は横ばい傾向。また、届出啓発のための団体紹介冊子を広報いずみと同時に全戸配布しているにも関わらず、届出率は全体から見ると 15%以下であり、85%の市民は関心や興味がなく、市民活動を応援するための「届出」を行うといった行動までには至っていない。

●届出率の推移

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
届出率	9.3%	12.5%	13.9%	12.3%	14.5%	14.3%	13.6%	14.3%
届出人数	13,945	18,818	21,017	18,595	22,107	21,824	20,737	21,899
届出対象者数	150,163	150,932	151,235	151,600	152,016	152,118	152,670	152,871

参考 平成 27 年度結果（1%支援制度実施自治体）

	市川市	大分市	一宮市	奥州市	八千代市	佐賀市	生駒市
届出数(人)	7,587	25,223	34,788	1,767	1,754	18,915	6,194
届出率	3.3%	6.5%	10.9%	3.9%	1.9%	9.5%	6.2%

(2) 支援対象団体の推移

支援対象団体は、制度導入時の平成 23 年度の 30 団体から始まり、平成 30 年度は 41 団体となり、支援対象団体数は微増・微減を繰り返しており、8 年間で延べ 271 団体への支援を行なっている。団体の傾向としては、半数以上の団体が継続し、新規団体の参加がある一方、当該年度で参加をやめてしまう団体も多い。

また、団体の内訳としては、地域が主体となっている地縁型の団体（だんじり祭や夏祭りなど）と特定の課題をテーマとした団体（テーマ型）があり、テーマ型の団体が多い。

しかしながら、テーマ型の団体については、地縁型の団体と比較し、制度への継続年数が短く、事業費総額（事業規模）が小さい。

●支援対象団体数の推移

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
団体数	30団体	27団体	34団体	31団体	38団体	33団体	37団体	41団体
内)継続団体	21団体	26団体	26団体	27団体	29団体	31団体	34団体	36団体
内)新規団体		6団体	8団体	5団体	10団体	4団体	6団体	7団体
内)非継続団体	9団体	1団体	8団体	4団体	9団体	2団体	3団体	5団体

※継続団体：次年度も引き続き申請している団体

※新規団体：当該年度に新たに申請した団体

●団体の内訳

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
団体数	30団体	27団体	34団体	31団体	38団体	33団体	37団体	41団体
内)地縁型	10団体	9団体	10団体	10団体	11団体	9団体	11団体	11団体
内)テーマ型	20団体	18団体	24団体	21団体	27団体	24団体	26団体	30団体

3. 申請団体の状況

(1) 申請団体の継続状況

制度当初から継続して申請している団体数は14団体あり、その多くが、事業規模の拡大及び団体としての認知度（得票率）を高めており、制度を活用したことで団体の活性化及び成長に繋がったものと考えられる。

申請団体数については、毎年、新規団体の申請がある一方、申請したものの単年度でやめてしまう団体が25団体あり、3年以内にやめてしまう団体と合わせると35団体にのぼり、大半がテーマ型の団体であることがわかる。

その理由として、テーマ型の団体は知名度が低く、規模が小さい団体が多いことから、届出を得るためのPR活動を行うにもかかわらず、組織的な得票もなく支援希望額を十分に得られないことから、希望する事業の実施に至らないことや事業の縮小等を余儀なくされることとなり、事業継続が困難となる事が要因と考えられ、すべての市民活動の芽を育み活性化させるといった支援には繋がっていないものと考えられる。

また、申請書や実績報告などの提出資料の作成や領収書の提出など、手続きの煩雑さも小規模団体にとっては負担になっていることも要因の一つと考えられる。

●支援対象団体の継続年数（平成23年度から平成30年度）

継続年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年
団体数	29団体	11団体	5団体	5団体	5団体	2団体	5団体	14団体
内)地縁型	9団体	1団体	0団体	0団体	2団体	1団体	2団体	5団体
内)テーマ型	20団体	10団体	5団体	5団体	3団体	1団体	3団体	9団体
内)非継続数	25団体	7団体	3団体	2団体	2団体	1団体	1団体	0団体

●制度当初から継続して申請している団体の事業規模の比較

団 体 名		H23 事業費総額	得票率	H30 事業費総額	得票率	増減	
						事業費	得票率
1	あおばお助け隊	205,000	100%	305,500	100%	増	—
2	ミータスコア・グループ未来	1,194,075	42%	1,272,005	47%	増	増
3	のぞみ野街づくり推進委員会	2,089,396	100%	2,367,966	82%	増	減
4	和泉だんじり大連合青年部	924,100	41%	1,826,731	100%	増	増
5	松尾連合地車連絡協議会	1,527,625	58%	1,685,082	44%	増	減
6	和泉市少年少女合唱団	177,129	38%	575,429	66%	増	増
7	一般社団法人 和泉青年会議所	895,768	88%	811,729	100%	減	増
8	信太連合	3,403,327	100%	3,912,767	100%	増	—
9	和泉の国ジャズストリート実行委員会	3,187,375	30%	3,244,730	49%	増	増
10	国府校区納涼大会実行委員会	894,568	15%	3,417,073	29%	増	増
11	内田町ボランティア会の会	284,281	100%	441,191	100%	増	—
12	和泉市音楽家連盟「音の和」	661,989	23%	578,888	54%	減	増
13	特定非営利活動法人 こども NPO センターいずみっ子	228,697	100%	164,841	100%	減	—
14	特定非営利活動法人 いずみの国の自然館クラブ	140,604	100%	370,686	100%	増	—

(2) 申請団体の支援金獲得状況

交付申請額（交付希望額）に対する支援金の獲得状況について、例年満額（100%）を獲得する団体があり、満額を獲得している団体の内訳については、地域の祭りを実施している地縁型の団体が多く、地域からの得票により安定的に事業を実施しており、継続性が高く事業規模も拡大している団体が多い。また、テーマ型の団体については、団体として認知度が高い団体や継続して事業を実施している団体、社会的に注目されている課題をテーマとする団体等については、市民からの関心や理解が得やすく得票に繋がる傾向があり、交付申請額の大半を獲得している団体がある。

一方で新規団体や地域にゆかりのない団体等については、団体による PR 活動を実施するものの、市民からの興味や関心を持ってもらいにくく交付申請額の半分以上の支援金額となっている団体が多数あり、団体間において得票率に格差が出ている。

また、高額な支援金を獲得している団体については地縁型の団体が大半を占めている。

●支援希望額に対する達成（得票）状況

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
団体数	30団体	27団体	34団体	31団体	38団体	33団体	37団体	41団体
内)地縁型	10団体	9団体	10団体	10団体	11団体	9団体	11団体	11団体
内)テーマ型	20団体	18団体	24団体	21団体	27団体	24団体	26団体	30団体
満額(100%)	14団体	12団体	16団体	16団体	15団体	12団体	11団体	17団体
内)地縁型	6団体	5団体	6団体	7団体	4団体	4団体	2団体	4団体
内)テーマ型	8団体	7団体	10団体	9団体	11団体	8団体	9団体	13団体
99%～50%	4団体	11団体	11団体	9団体	17団体	16団体	21団体	15団体
内)地縁型	2団体	4団体	4団体	1団体	5団体	4団体	8団体	5団体
内)テーマ型	2団体	7団体	7団体	8団体	12団体	12団体	13団体	10団体
49%～	12団体	4団体	7団体	6団体	6団体	5団体	5団体	9団体
内)地縁型	2団体	0団体	0団体	2団体	2団体	1団体	1団体	2団体
内)テーマ型	10団体	4団体	7団体	4団体	4団体	4団体	4団体	7団体

●平成30年度 交付確定額が50万円以上の団体

種別	団体名	事業名	事業費総額 (円)	対象経費 (円)	支援希望額 (円)	市民からの 届出総額 (円)	交付確定額 (円)
地縁	のぞみ野街づくり推進委員会	第14回 のぞみ野夏まつり	2,500,000	1,920,000	800,000	656,580	656,580
地縁	信太連合	信太連合(聖大祭・地車祭の安全対策、PR活動、清掃)	3,500,000	1,720,000	800,000	915,097	800,000
地縁	青葉はつが野世代間交流推進委員会	第37回 青葉台夏まつり	2,220,000	1,910,000	800,000	912,256	800,000
テーマ	和泉・ねころじの会	地域猫の活動	2,850,000	2,850,000	800,000	775,039	775,039
地縁	和泉だんじり大連合青年部	和泉だんじり祭り継承事業	1,835,000	1,635,000	800,000	886,442	800,000
テーマ	NPO法人 いずみ太鼓	災害復興応援チャリティーイベントいずみの国弥生まつり	1,390,420	1,390,420	695,210	554,301	554,301
地縁	はつが野街づくり推進委員会	はつが野祭り	2,000,000	1,650,000	800,000	776,680	776,680

●平成30年度 支援希望額の満額（100％）の得票を獲得した団体

・テーマ型の団体が多くを占めているが、地縁型の団体に比べ、総事業費及び支援希望額が低いことがわかる。

地縁型4団体とテーマ型13団体の交付確定額総額を比較するとテーマ型については団体数では3倍以上であるにもかかわらず、交付確定額総額は地縁型よりも低い。

種別	団体名	事業名	事業費総額 (円)	対象経費 (円)	支援希望額 (円)	市民からの 届出総額 (円)	交付確定額 (円)
テーマ	あおばお助け隊	あおばお助け隊	340,000	277,000	100,000	148,790	100,000
地縁	信太連合	信太連合(聖大祭・地車祭の安全対策、PR活動、清掃)	3,500,000	1,720,000	800,000	915,097	800,000
地縁	青葉はつが野世代間交流推進委員会	第37回 青葉台夏まつり	2,220,000	1,910,000	800,000	912,256	800,000
テーマ	和泉市ディスコン協会	第11回和泉市地域交流ディスコン大会	80,000	80,000	40,000	40,758	36,394
テーマ	内田町ボランティア 蛍の会	蛍の放流・鑑賞会	433,800	433,800	216,900	233,945	216,900
テーマ	ガールスカウト大阪府第28団	野外クッキング&防災	150,000	150,000	75,000	112,920	75,000
テーマ	パソコン会	障がい者のためのパソコン教室	40,000	40,000	20,000	53,916	20,000
テーマ	一般社団法人和泉青年会議所	第7回 わんぱく相撲 和泉場所	800,000	800,000	400,000	405,354	400,000
テーマ	子育てサロン ふれんど	子育てサロン ふれんど 野外活動	77,250	77,250	38,625	56,952	30,075
地縁	和泉だんじり大連合青年部	和泉だんじり祭り継承事業	1,835,000	1,635,000	800,000	886,442	800,000
テーマ	モア21	米作りプロジェクト	48,000	48,000	24,000	48,896	24,000
テーマ	泉州信太山盆踊り保存会	伝承文化「泉州信太山盆踊り」保存・普及・交流事業	700,000	700,000	350,000	681,052	350,000
テーマ	特定非営利活動法人 いずみの国の自然館クラブ	自然観察・自然史科学の普及・自然史資料の収集整理・研究出版・環境教育・自然館でのイベント事業	360,000	360,000	180,000	198,848	180,000
テーマ	特定非営利活動法人 こどもNPOセンター いずみっ子	おもしろ体験型市場「こども市」	159,400	149,400	74,700	167,049	74,700
テーマ	「障害」をもつ仲間と共に歩む和泉若者の集い 実行委員会	第28回「障害」をもつ仲間と共に歩む和泉若者の集い	208,990	138,990	69,495	126,222	69,495
地縁	上代町盆踊り実行委員会	平成30年度 上代町盆踊り大会	753,000	313,000	156,500	174,643	156,500
テーマ	Glanz Winds Orchestra	定期演奏会	370,000	370,000	185,000	257,982	185,000

●支援希望額の満額（100％）の得票を獲得した団体の交付確定額総額

種別	団体数	交付確定額総額 (円)
地縁型	4	2,556,500
テーマ型	13	1,761,564

4. ちょいず制度の現状の課題

(1) ちょいず制度の認知度

制度の認知度の参考指標として、平成 27 年度に実施した第 4 次総合計画市民アンケートから、「①よく知っており、届出もしたことがある」、が 16.7%であり、届出率と概ね近い数値となっており、「ちょいず」を知っているかについては、①、②を含め約 32%であるが、「ちょいず」を認知していても住所・氏名・生年月日といった個人情報を記載してまで届出を行うという行動までには至っていないことが伺える。

●平成 27 年度第 4 次総合計画市民アンケートより

(対象者：18 歳以上の市民 3,000 人 ⇒ 有効回答数 1,009 件 回答率 33.6%)

設問：あなたは、和泉市あなたが選ぶ市民活動支援事業（愛称：ちょいず）をご存知ですか。

	項 目	件 数	率 (%)
①	よく知っており、届出もしたことがある	169	16.7%
②	まあまあ知っているが、届出はしたことがない	155	15.4%
③	あまり知らない	201	19.9%
④	全く知らない	474	47.0%
⑤	無回答	10	1.0%

(2) 事務経費

本制度を運用するための必要経費について、届出期間となる 2 月に広報紙と同時配布している制度・団体紹介冊子、届出用紙、返信用封筒等の「印刷製本費」、当該冊子等の配布に要する「委託料」及び返信用封筒による届出の「通信運搬費」が主となっており、本制度を運営するために必要不可欠な経費ではあるが、支援金額に対して 40%以上を占めており、事務経費の割合が高くなっている。

また、現状において実際に支援している金額は、1 千万円前後であり、市民税の 1%が約 9 千万円であることから、0.1%支援となっている。

・事務経費の推移

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
支援金総額	4,946,188	6,555,609	7,827,389	7,384,439	9,718,231	9,856,806	9,969,003	10,457,891
事務経費	3,774,804	4,070,537	4,388,397	5,339,165	4,234,942	4,156,959	4,002,834	4,261,613
事務経費率	76.3%	62.1%	56.1%	72.3%	43.6%	42.2%	40.2%	40.8%

事務経費内訳

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
判定会費	177,620	164,360	163,560	204,270	172,822	166,733	163,300	181,870
印刷製本費	1,813,970	2,319,455	2,440,865	3,270,888	2,251,680	2,150,927	2,068,286	2,134,338
通信運搬費	354,075	391,920	398,480	520,000	510,618	532,580	526,037	510,252
委託料	1,142,145	1,029,880	579,200	583,200	584,800	584,000	584,000	730,000
消耗品費	286,994	164,922	252,792	207,307	143,822	151,519	107,611	141,153
臨時職員賃金	0	0	553,500	553,500	571,200	571,200	553,600	564,000
合計	3,774,804	4,070,537	4,388,397	5,339,165	4,234,942	4,156,959	4,002,834	4,261,613

(3) 団体アンケート調査・意見交換会

●参加団体へのアンケート調査

令和元年度の参加団体を対象に実施したアンケート調査からは、本制度に参加することにより、資金的に助かったといった意見や事業の認知度が上がり、応援してくれる市民が増えたこと、市の広報紙に掲載されたことにより事業を周知することができたなど、事業が活性化されたといった成果が伺える一方で、届出に関する不満や負担といった課題が上げられている。届出制度の継続の可否については、肯定的な意見としては、市民の意見を取り入れられるいい制度だという意見が多く、否定的な意見としては、組織の大きな団体が有利であり不公平感があるといった意見が多く見られ、肯定派と否定派が按分される結果となった。両派共に届出してもらうための活動については負担に感じており、今後の市民活動の支援として望むことについては、安定した支援金の確保が一番多くなっており、届出により支援金を決定する手法について見直すことを望まれているものと考えられる。

また、届出制度に代わる審査手法としてプレゼンテーションによる審査を望む意見も上げられている。

●不参加団体へのアンケート調査

市内NPO法人、アイ・あいロビーに登録している市民活動団体、過去に本制度に参加していた団体を対象に実施したアンケート調査からは、本制度に参加する要件を満たしている団体が多数あるにもかかわらず、参加していない状況であり、参加しない理由としては届出制度に対する不満や不公平感といったことが大きな要因となっていることがわかり、届出制度の廃止を望む意見も多数上げられている。

●参加団体との意見交換会

令和元年度の参加団体を対象に上記アンケート結果に基づき、すべての市民活動が活性化するための審査手法を検討するため、「届出制度に代わる審査手法」をテーマに3グループに分かれ意見交換を実施し、参加団体同士で届出制度の良いところと課題・問題点等を改めて出し合い、それに代わる改善策・代替策を検討し、新たな審査手法について協議したところ、様々な意見がある中、新たな審査手法の結論にまで至った2つのグループにおいては、プレゼンテーションによる有識者の審査を望む意見が出され、また、すべてのグループにおいて届出制度への課題や不満といった意見が出された。

(4) 自治推進審議会の答申

●平成28年9月9日付けの自治推進審議会答申書の提言内容

- ① 多様な市民活動団体が参加しやすい環境づくり。
 - ・組織力のない団体が、参加しづらい。
 - ・シンプルな方法で、多分野にわたる市民活動を応援する制度設計の構築。
- ② 事務経費の見直し
 - ・PR冊子の費用対効果が疑問。
 - ・団体の事業のPR方法の見直し。
- ③ 新たな協働事業の構築の検討
 - ・市民と行政と一緒に組み立てて、協働で事業実施する「市民提案型」の新たな協働事業の構築研究

(5) 他市の状況

現在の１％支援制度の実施自治体の状況については、平成 17 年度に日本で初めて本制度を導入した「市川市」は、平成 27 年度で本制度を廃止し、新たな支援制度に移行している。

同じく、平成 24 年度に「恵庭市」、平成 27 年度に「奥州市」、平成 28 年度に「佐賀市」が本制度を廃止している。制度を廃止した自治体において共通していることは、本制度の運用にかかる経費が支援金総額に対して高いこと、つまり費用対効果が悪いことを主な要因としており、廃止後は、届出による支援金の決定方法を廃止し、より効率的で使いやすい制度へと移行を決めている。

現在では全国で 5 市が本制度を実施しているが、運用経費が高いということが共通した課題であり、見直しを検討している自治体がある。

導入年度	市町村名	備 考
平成 17 年度	市川市（千葉県）	※平成 27 年度終了
平成 20 年度	大分市（大分県）	
	一宮市（愛知県）	
	奥州市（岩手県）	※平成 27 年度終了
	恵庭市（北海道）	※平成 24 年度終了
平成 21 年度	八千代市（千葉県）	
平成 22 年度	和泉市	実施は平成 23 年度から
平成 23 年度	佐賀市（佐賀県）	※平成 28 年度終了
	生駒市（奈良県）	

5. ちよいず制度見直しの対応方針（案）

これまでの実施状況や経過を踏まえると、市民活動団体の活動を積極的に情報公開するとともに、市民税1%を原資として市民の「届出」により支援金を決定するという手法は市民の市民活動への関心や理解を深めることにつながり、市民活動への活性化に寄与するとともに、協働によるまちづくりの促進に一定貢献できたものと考ええる。

しかしながら、先に記載の届出率やアンケート結果の認知度のとおり、市民活動に対する関心が低い市民が多いことが実態であり、本制度は、市民による「届出」という行動により市民活動の支援が成立することから、現状の届出率からみると市民全体の意見を反映したものと言い難く、制度の本来の趣旨を果たしているとは考えにくい。

市民活動については多種多様なテーマがあり、全ての市民が求めており共感を得られるものばかりではないが市民活動の大小や知名度にかかわらず、団体を公平に支援し、市民活動を活性化することがまちづくりの推進において必要である。このことから、市民活動団体の支援は引き続き実施していく事が重要であり、様々な課題の解消につなげるよう「ちよいず制度」の見直しを行い、市民活動団体が安定的に継続し、事業の活性化に繋がる支援を行なえる制度の構築を検討する必要がある。

（１）制度見直しの対応方針（案）

項目	対応方針（案）
制度のあり方	積極的な市民活動を今後も支援するという趣旨は変えないが、根本的な制度である「市民税1%支援制度」という制度については、届出率の状況などを勘案し廃止するものとし、市が定める予算の範囲内において行なう新たな市民活動支援制度として実施していく。
対象支援団体	基本的にこれまでのとおりとする。
対象事業	基本的にこれまでのとおりとするが、要綱制定時に再検討。
支援金の額	これまでどおり対象経費の1/2、限度額を80万円とする。
申請・実績報告等の手続き	積極的な申請を促すため、簡素化について検討。
支援金の決定方法	「市民税1%支援制度」の廃止に伴い、18歳以上の市民からの届出制は廃止することにより、事務経費負担の軽減を図る。 【支援金決定方法（案）】 ① 申請書類一次審査（選定委員会が審査） ② 公開プレゼンテーション二次審査（選定委員会が審査） ※詳細な審査基準及び支援金の決定基準を定める。 【選定委員会の委員（案）】 ・有識者（大学教授・NPO関連団体など）7名 ・公募市民 3名 （ただし、委員は申請団体と関係がある人は除く。）

(2) 見直しの効果

市民活動の大小や認知度のあるなしにかかわらず、公平に市民活動を支援することが可能であり、市民活動団体が効果的で使いやすく、更なる市民活動の活性化に資することができる。

【効果】

- ①安定した支援金の交付が可能。
- ②予算や事業計画が立てやすく、安定した事業の実施に繋がる。
- ③事業の変更や中止することが減り、安定した市民サービスの提供が可能。
- ④団体の負担の減少。
- ⑤選定委員会の審査により、有識者等による適正な判断が期待できる。
- ⑥選定委員会により直接団体を審査することにより、有識者等によるアドバイス等が団体に直接伝えられ、また公開で行われることにより他の団体間においても情報共有ができる。
- ⑦選定委員会への市民委員の参画により、民意を確保することができる。
- ⑧公開プレゼンテーションにより、市民活動団体が直接市民へ団体や事業のPRを行うことができ、また、団体同士の情報共有が促進し、団体間の連携が促進される。
- ⑨支援金額の決定までにかかる時間が短縮される。
- ⑩事務負担の減少
- ⑪事務経費の削減

6. 今後の見直しスケジュール（案）

令和元年 8月	団体アンケート
令和元年 9月	意見交換会（令和元年度支援対象団体）
令和元年 9月	両副市長レク
令和元年 9月	市長レク
令和元年 10月	自治推進本部会議開催
令和元年 10月～11月	自治推進審議会開催 制度見直し諮問 ⇒ 答申
令和元年 11月末	市の対応方針、新制度内容決定
令和元年 12月	総務安全委員会協議会で「制度見直し（案）」の報告
令和2年 1月	新制度要綱（案）策定
令和2年 1月末	パブリックコメント実施
	既存申請団体等への周知
令和2年 3月末	総務安全委員会協議会で「最終案」を報告
令和2年 4月	新制度要綱策定
令和2年 9月	新制度説明会
令和2年 10月	新制度での申請受付
令和2年 2月	新制度による審査（公開プレゼンテーション）